

英語劇本番に向けて練習中！

町内の小・中学生が英語に親しみつつ、劇の練習をとおり、子ども同士のふれあいを深める機会と場を提供することを目的に、毎年行われている英語劇。20回目の今年には「ジャックと豆の木」を町内の小・中学生が演じます。今年の英語劇には43人が応募し、6月から毎週水曜日にカルチャーセンターで練習を行っています。練習は町ALTのエリック先生と、ボランティアの御船高校生18人、平成音楽大学生2人の協力により行われています。



期日 8月31日(土)
開場 17時30分
開演 18時
場所 町カルチャーセンター

入場無料

問い合わせ 町カルチャーセンター
☎282-0888

スタンプを集めながらフネッピーを探せ！

8月3日、東海大学「熊本地域プロデュースプロジェクト」と町が共催し、恐竜博物館や本町通りの商店街などを回ってスタンプを集める「第1回御船わくわくスタンプラリー〜フネッピーを探せ!!〜」が行われ、町内の小・中学生や御船高校生ボランティアが参加しました。参加者は約1時間半かけて、町内の16カ所のスタンプ設置地点を巡りながらスタンプを集め、スペシャルスタンプを持つ「フネッピー」を探して歩きました。子どもたちは、フネッピーを見つけると「フネッピーがいたー!」と笑顔で近寄り、スタンプを押してもらっていました。



自主防災組織を「にわか劇」で演じる



7月24日、毎月行われている嘱託員定例会議で、自主防災組織をテーマにした「にわか劇」が披露されました。披露したのは、健康増進計画プラン21策定推進委員会の地域包括ケア部会の会員11人で、自主防災組織について親しみやすい啓発活動をしように、今年2月から練習を重ね、今回のお披露目となりました。町の自主防災組織の組織率は9割で、今後も、災害などに備えて全嘱託区自主防災組織の設置を目指しています。

地域の歴史を見て学び・子どもたちに伝える

七滝中央小学校(木屋秀章校長、75人)で、同小学校の先生たちが、吉無田水源や江戸時代に造られた元禄・嘉永井手について校内研修を行いました。研修は地元の歴史に詳しい田中外至さん(上野)の説明を聞いた後、実際に現地に移動し、九十九トンネルや元禄井手・嘉永井手の合流点などを見て回りました。研修は毎年夏休みに行われており、昨年は郷土先哲の一人「宮部鼎蔵」の研修が行われ、元禄・嘉永井手の研修は2年に1回行われています。同小は、地域の教育力を生かし、地域に開かれた学校づくりを目指す、コミュニティースクールの指定を受けています。



吉無田の大自然の中で



8月4日、吉無田「第12回ふれあい夏祭り」が、吉無田高原緑の村グラウンドで行われました。祭りは田代東部公民館活性化委員会(吉澤勝美会長)の主催で毎年、吉無田高原緑の村グラウンドで行われています。16時過ぎに七滝中央小学校の新風太鼓「響」の演奏で開会した祭りでは、御船ひょっとこ愛笑会によるひょっとこ踊りや、音楽デュオ「ビエント」によるゆうすげコンサートなどさまざまなステージが披露されました。祭りの終盤、薄暗くなった吉無田高



原一帯に竹たいまつ火が灯され、幻想的な光を放ちました。また、今年も吉無田高原に現れた、恐竜の郷みふねプロジェクト(竹田津純代表)が制作した恐竜ねぶた。今回で3体目となる作品は、同プロジェクトメンバー10人が4カ月かけて制作しました。首長竜をイメージして作製されており、ねぶたの名前は「海王」。観客の前で明かりが点灯され、息が吹き込まれた美しい姿を現しました。最後は吉無田高原に花火が打ち上げられ、観客を魅了しました。